

未来への協働

ニュースレター No.1

<https://kyodomirai.org>



2025年2月1日(土)

発行 未来への協働

〒577-0023

大阪府東大阪市荒本2-14-5

電話/FAX (06) 4306-3512

郵便振替 00940-8-213061

Email: miraihenokyodo@gmail.com

毎月1日発行 頒価 200円(送料別)



東遊園地公園(神戸市中央区)には灯籠約6500本が用意され、「よりそう1・17」の文字が描かれた＝1月17日

阪神淡路大震災30年の集い

被災者支援、生活再建を振り返る

1995年1月17日午前5時46分。阪神淡路大震災(六甲・淡路島断層帯、M7・1、最大震度7～6)が襲った。6434人が亡くなり、多くの人が家や家族、知己を失い、その後の苦難の暮らしを強いられた

神戸市役所前で「被災者追い出しを許さない! 1・17追悼・連帯・抗議、阪神淡路大震災30年」被災地の集いが開かれ、約50人が参加した。震災直後から市や県に、避難所の改善や生活再建支援、住まい確保などを訴え、被災者連絡会を立ち上げた河村宗治郎さん(2018年没)が呼びかけ、毎年続けられてきたが、今年30年を区切りに開催を終える。

「震災から30年。震災で失ったものが未だに回復し

ていない。借り上げ住宅、復興住宅などさまざま運動してきた。住まいと暮らしの再建が大きな課題となる中で阪神淡路大震災を契機に、被災者生活再建支援法をつくることができた。不十分だったが生活再建のスタートの制度だ。その拡充をめざし各地の被災地と声をあげていこう」と、栗原富夫・神戸市議があいさつ。

被災者・市民団体が「仕事を失い、みんなで仕事開発事業を立ち上げた。市や県に要求、座り込みも。復興住宅からの追い出しとも、たたかった」「能登地震の対応に活かされているのか」など、それぞれの思いを語った。東遊園地公園には灯籠約6500本が用意され、「よりそう1・17」の文字が描かれた。市役所前の歩道は、死者に祈念する銘板や灯籠を訪れる人たちの行き来が絶えなかった。(高崎、竹田)

カジノ・万博、弾薬庫拡張、 老朽原発 1 月 6 日 ロックアクション

新年早々、1 月 6 日に恒例の「戦争あかん！ロックアクション」の集会とデモが行われました。3 人の方がアピールしました。

今すぐ万博の中止を

カジノ問題を考える大阪ネットワーク事務局長・藪田ゆきえさんは「今すぐ万博中止を」と訴えました。

弾薬庫は攻撃目標

宮古島の要塞化に反対する会・西川さんは、「西日本各地で行われているミサイル弾薬庫建設を許すな」と訴えました。

「日本政府は台湾有事を口実に、南西方面琉球弧へのミサイル部隊、弾薬庫建設を押し進めています。大量のミサイルを保管するために、西日本各地に弾薬庫を増設する計画を押し進めています。2024 年度の予算で組まれた弾薬庫の内訳は沖縄訓練場に 5 棟、瀬戸内分屯地（奄美大島）に 3 棟、えびの駐屯地に 2 棟、大分分屯地に 3 棟、舞鶴に 3 棟、祝園（ほうその）分屯地に 8 棟となっています。また、宮古島の弾薬庫では 3 棟目の建設が進められています。

25 年度予算案ではあらたに 21 棟の建設費用、336 億円が計上されています」

1939 年の大阪府枚方市の禁野（きんや）火薬庫大爆発、沖縄の弾薬庫爆発の被害などを語り、「戦争となれば、移動しない弾薬庫が攻撃目標になります。そうなれば、周辺の住宅にも被害が及びます」と、住民とともにたたかおうと呼びかけました。

2023 年 10 月 10 日 閣議決定 使用済み核燃料対策ロードマップ ※色付は筆者

年度	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
六ヶ所再処理工場	各電力会社の使用済み核燃料の再処理												
	70t 170t 70t (徐々に800tに増加) 800t 800t 800t 800t 800t												
	各電力会社の使用済み核燃料受入れ (発電所から搬出)												
使用済み MOX 燃料 再処理実証研究	70t 170t 70t (徐々に800tに増加) 800t 800t 800t 800t												
	高浜発電所から仏国搬出 (オラノ社への搬出200t)												

関電使用済み核燃料対策ロードマップ

ロードマップの破たん

「はんげんぱつ新聞」編集長の末田さんは、「今こそ、関電の老朽 3 原発を止める大きなチャンス」と訴えました。

24 年度末までに「使用済み燃料対策ロードマップ」を見直して実効性のある計画を提示できない場合は、「美浜 3 号機、高浜 1、2 号機の運転は実施しないという不運転の覚悟で臨む」と約束したからです。

関電は、六ヶ所再処理工場の稼働をあてにしていたが、日本原燃は再処理工場の竣工時期について 27 回目の延期を行い、26 年中としたため、関電の目論見が崩れました。

末田さんは「関電にとって新しいロードマップをつくるということはそんなに簡単ではない。福井県知事が簡単にイエスといえない状況を私たちが作れば、24 年度末に 3 原発を止められる。このチャンスを生かして老朽原発を止めましょう」と訴えました。（池内潤子）

韓国・戒厳令と「光の革命」 金光男さん緊急報告 (上)



国会に突入する戒厳軍、それを阻止しようと駆けつける市民や国会関係者。

自分ならどうする？ いや、その瞬間、ここに駆けつけることのできる自分でありたい。少なくない日本人が、若者たちが、事態をこのように受け止め始めている。

12 月 23 日、金光男さん（キム・カンナム）が、迫真の緊急報告を行った（京都市内）。金光男さんは、在日韓国研究所代表として、朝鮮半島情勢や韓国の政治経済動向を、民衆の側から内面的に分析し展望を示している。（編集／構成 「未来への協働」 編集委員会）

●目次

- 【Ⅰ】12 月 3 日午後 10 時 23 分
- 【Ⅱ】動揺する戒厳軍兵士たち
- 【Ⅲ】1 年前から企まれていた

—— 以下次号

【Ⅳ】なぜ 12 月 3 日？——「愛妻クーデター」

【Ⅴ】12・7～12・14～「光の革命」

【Ⅵ】憲法改正から第 7 共和国へ

【Ⅰ】12 月 3 日午後 10 時 23 分

▼親衛クーデター

12 月 3 日、韓国で突然、戒厳令が布告されました。皆さんも驚かれたと思います。私（金光男さん）もまさかと思いました。

皆さんも、テレビニュースで見られていたでしょう。戒厳軍の兵士が、国会本館、与党「国民の力」代表室のガラス窓を叩き割って中に乱入していくのを。

戒厳令が宣布されたのは、12 月 3 日午後 10 時 23 分、その後、午後 11 時に戒厳司令部の布告第 1 号が発表されました。布告第 1 号は、国会と地方議会、政党の活動と政治的結社・集会・示威など、一切の政治活動を禁止すると。これは、完全に憲法違反です。1 つは、戦時でも非常時でもないのです。経済活動も市民生活も平常に行なわれている。なのに戒厳令を布告することは憲法上できないのです。2 つに、戒厳令が、言論や集会などを著しく制限するとしても、国会は、基本的人権の制限を牽制する装置であり、また、戒厳令の解除を決議できる権限を有しているものおり、だから国会だけは戒厳令をもってしても統制することはできないと、憲法が規定しているのです。

だから、12・3 戒厳令は、戒厳令という名のクーデターです。クーデターにも 2 つあります。普通、クーデターとは、合法的な政権を倒して権力を篡奪するというものです。しかし今回の場合、ユン・ソンニョル（尹錫悦）大統領は権力を合法的に握っている。合法的に権力を握ってしながらクーデターを行った目的は、反対勢力である国会を制圧するためであったわけです。だから、今回の戒厳令は、「親衛クーデター」（※権力者が、反対勢力を排除し、権力をより強化する目的で行うという意味）という言われ方を韓国ではしています。

◆国会制圧と与野党代表者の連行

なぜ国会を制圧しようとしたのか？ 権力を握っているユン・ソンニョル政権にとって、野党が過半数を占めている国会こそ、最大の反対勢力だったからです。さらに、戒厳令を宣布した後、国会で過半数（定数 300、よって 151）の議員の賛成があれば、解除する権限を持って

いるので、国会を制圧して「戒厳令解除要求決議」ができないようにすることを狙ったのです。「国会議員全員を引きずり出せ」と指示されていたということは、既に司令官が証言しています。さらに、現在判明しているところでは、10 数名の与党と野党の指導者を連行し、そして、「共に民主党」本部を始め、6 カ所を戒厳軍が制圧する計画であったことが明らかになっています。

12 月 3 日、戒厳令を宣布したとき、ユン・ソンニョル大統領は、次のように戒厳令の目的を明らかにしました。「私は北朝鮮・共産勢力の脅威から自由大韓民国を守護するために非常戒厳を宣布する」、続けて「国会は犯罪者集団の巣窟だ」と。12 月 12 日に発表した対国民談話では「巨大野党が支配する国会は、自由民主主義の憲政秩序を破壊する怪物になった」と。

12・3 戒厳令は、まさに国会を反国家勢力だと規定をして、国会を制圧し、与野党の代表者を連行することを目的にしていたわけです。

▼「早く！早く！」

こうして、12 月 3 日午後 10 時 23 分、戒厳令が宣布され、戒厳司令部が設置されました。ということは、国会において、戒厳令解除要求決議案を可決できるか、その前に戒厳軍が国会本会議場を制圧して採決そのものをできなくしてしまうか、まさに、時間との競争になったのです。

私も、ずっとパソコンに張りついて YouTube を見ていましたが、「早く！早く！」という言葉しか出なかったです。

国会の前に、市民が集まってきました。国会本館の前では、国会議員の補佐官や秘書官たちが人垣をつくって構えていました。

すると、国会裏にある運動場にヘリコプターが着陸し、「特戦団（※韓国陸軍の最精鋭）」が突入してきました。軽機関銃を持っています。実弾は装填していませんでしたけど、部隊ごとに実弾は配られており、実弾カートリッジを渡せば、いつでも発砲できる状態です。

さらに、首都警備司令部（※首都ソウルを守る軍隊）が装甲車でやってきました。この装甲車を、市民が囲んで国会の中に入れないようにしていました。

そして、国会本館前では、補佐官や秘書官たちが、突入してくる特戦団の兵士に、文字通り体を張って抵抗していました。国会本館の中ではバリケードを築いていました。軽機関銃には、消火器で応戦しました。

◆67 歳議長も塀を乗り越える

しかし、国会前では、ソウル警察庁長官の指示で、国会を守るはずの警察が、駆けつけてくる国会議員らを阻

止していました。

さあ、どうするか？ 団体チャットルーム（※多数人が同時にチャットできるシステム）には、次々と情報が流されました。「国会第1門と第3門の間の警備が手薄だ。そこから塀を越えろ」とか。みんな、その情報にもとづいて、国会の敷地は相当広いのですが、警備の薄い場所を見つけて、次々と塀を乗り越えていきました。その姿をメディアにばっちり撮られたのが、ウ・ウォンシク（禹元植）国会議長です。67歳の国会議長も塀を乗り越えたのです。イ・ジェミョン（李在明）「共に民主党」代表も、もちろん塀を越えました。

こうして、4日午前1時1分、出席190人で国会の開会が宣言され、午前1時3分に、戒厳令解除要求決議案を可決、その瞬間、ウ・ウォンシク国会議長が、「戒厳令は無効だ」と宣言したのです。

◆銃口をつかんで

みなさん、たぶん、軽機関銃を構えた兵士に立ち向かう女性の姿をニュース映像で観たでしょう。彼女は、アナウンサー出身で「共に民主党」報道官のアン・ギリョンさんです。兵士が向けた銃口を手でつかんで、「銃を下げなさい！ 恥ずかしくないのか！」と一喝しています。よく見ると、一瞬、兵士の指が引き金にかかっている。しかし、迫力に押されて兵士は下がっていきました。アン・ギリョンさんは、その後、海外メディアのインタビューにこう答えています。

「――なぜ銃口をつかんだのか？ そのときは考えている暇はなかった。ただ、とっさに銃口をつかんだ。

私は1989年生まれ（※民主化は1987年 註）。民主主義は、もう当たり前のものだと思って、いままで生きてきました。しかし、戒厳令によって、その当たり前だと思っていた民主主義が、そうではなくて、たたかい取られたものだったのだということが分かりました。そして、それが奪われようとしているのだから、次は、その民主主義を与えられたわれわれが守らなくてはならないんだと思いました」

（註）1960年4月の学生中心の「4月革命」と翌61年の朴正熙（パク・チョンヒ）によるクーデター、続く朴正熙の軍事独裁。79年の朴大統領射殺事件を機とする民主化闘争、それにたいする全斗煥（チョン・ドファン）のクーデターと弾圧、80年5・17の戒厳令全国拡大と光州事件（戒厳軍による弾圧で、死者は193人から2000人に上るとも）、87年の学生・市民の大統領直接選挙要求デモと6月民主抗争、6・29民主化宣言、10月の憲法改正による「第6共和国」成立。

【Ⅱ】動揺する戒厳軍兵士たち

それにしても、皆さん、ちょっと不思議に思われませんでしたか？

今回、国会に突入してきた特戦団の中には、「707特任団」もいるのです。707特任団というのは、南北で戦争が起きたときに、平壤に突入して金正恩総書記を殺害する斬首部隊なのです。ところが、そういう部隊が、議員補佐官・秘書官らに逆に押し返されているのですよ。おかしいでしょう。斬首部隊であるにもかかわらず消極的なのです。

それから、ヘリコプターの到着です。戒厳令の発表が午後10時23分、布告1号が11時。普通ならば、その時点で、ヘリは国会の上空で構えていて、布告1号と同時に着陸・突入しなければいけなかったのです。ところが、ずいぶん遅れるのです。これもおかしいでしょう。

それが、なぜなのかが分かりました。

特戦団の司令官は、三日前に、キム・ヨンヒョン（金龍顕）国防部長官から、戒厳令のことを知らされていました。ところが兵士たちは知らされていません。兵士たちは、「北朝鮮から飛んで来るゴミ風船に対抗する作戦のため、ヘリコプターで移動する」と言われていたのです。ところが、到着したのは国会。兵士たちは、完全に戸惑っているわけです。

さらに、ヘリの到着が遅れた理由です。特戦団は、京畿道（キョンギド）利川（イチョン）市からソウルに飛んで来ます。ソウル上空に入るとき、とくに国会の前には大統領室がありますから、その周辺3キロ強は飛行禁止区域です。この飛行禁止区域に許可なく侵入すれば撃墜されることになっています。したがって特戦団のヘリと言えども、この飛行禁止区域を通過して国会に着陸するには、事前に首都警備司令部から許可をもらわなくてはならない。ところが、事前に許可をもらおうとすれば、「何のため？」となり、「国会に着陸するから」という話をしないといけいない。当然、「何で、軍が国会に行くのか？」ということになりますよね。

こうして、ヘリが飛び立つ段階ではじめて、操縦士が飛行許可を求めたのですが、首都警備司令部は2回、拒否しています。「何のために国会に着陸するんだ。目的を明らかにせよ」と。結局、戒厳司令官が首都警備司令部に連絡して、ようやく飛行許可が出た。だから、ヘリの到着が遅れたわけです。

だから、兵士たちは明らかに、事態に動揺していました。国会本会議場の前に立ちはだかった補佐官・秘書官たちは、40代・50代の女性が多かったそうです。彼女

らが、突入してきた特戦団の兵士の頬を張り倒しました。その兵士は思わず引き下がったそうです。なぜかと言えば、兵士は 20 代、彼らからすれば自分のオモニ・母親と同世代なんです。

あるいは、与党「国民の力」代表室のガラスを割って軍が突入しましたが、そこには、ハン・ドンフン（韓東勲）代表に送られたランの鉢植えがあったそうです。普通なら、そんなものは蹴散らしますよね。ところが、丁寧に脇の方によけてあったそうです。

こうした様々な事情が絡み合って、午前 1 時 1 分に開会が宣言され、1 時 3 分に戒厳令解除要求決議案が可決しました。

まさに奇跡的です。

【Ⅲ】1 年前から企まれていた

▼戒厳令は、いつから準備されていたのか？

今後、特別検事の捜査や、国会の調査権で、全貌は明らかになると思います。

今、分かっている範囲では、既に昨年（2023 年）の後半から、ユン・ソンニョル大統領は戒厳令について議論を始めたようです。そして、今年（2024 年）の 8 月以降、戒厳令の準備が具体化しました。それまで大統領警護処長だったキム・ヨンヒョンが、8 月に国防部長官に移りました。このとき「共に民主党」で軍の内部情報に詳しい人たちは、異常を察知したようです。なぜこの時期にキム・ヨンヒョンを国防部長官にしなければならないのか。

そして調査をすると、キム・ヨンヒョンが、大統領警護処長のときに、今回、国会に乱入した部隊、すなわち、特戦団司令部、首都警備司令部、防諜司令部（憲兵組織）の 3 つの部隊の司令官を呼んで秘密会談をやっていた事実が後に明らかになります。大統領警護処長は軍の作戦指揮団員ではないので、これは完全に不法行為です。

だから、このころから、戒厳令についての具体的な検討が始まったのではないかと、推測されるわけです。

▼「共に民主党」のシミュレーション

今、「共に民主党」が次々と戒厳令に関する事実関係を明らかにしています。その調査の中心は、キム・ミンソク議員、キム・ミョンジュ議員、パク・ソンウォン議員、プ・スンチャン議員の 4 人です。キム・ミンソク議員は、元ソウル大学の学生会長で、1982 年の釜山アメリカ文

化院籠城闘争をたたかった学生運動出身者。キム・ミョンジュ議員は、皆さん驚かれるかと思うけど、韓国陸軍の元フォースター、陸軍大将。韓米連合司令部の副司令官でした。そういう人物が今、「共に民主党」の議員になっているのです。したがって、当然ながら、軍の中に太い人脈を持っていますから、情報がどんどん集まってきているわけです。パク・ソンウォン議員は、国会議員になるまで、国家情報院の第一次長、国家情報院のナンバー 3 です。プ・スンチャン議員は、韓国国防部の報道官をしていました。こういう具合ですから、良心宣言的な情報提供が相次いでおり、それを「共に民主党」が明らかにしているわけです。

この 4 議員が、今年 8 月、キム・ヨンヒョンが国防部長官に移行するなどの動きを見て、「これは戒厳令が現実化しそうだ」と判断したそうです。イ・ジェミョン代表にその判断が伝えられ、代表も、「時期はいつになるか分からないが、間違いなく宣布される」という確信を持ったということです。

皆さん、国会議員や補佐官・秘書官らの動きが、迅速過ぎると思いませんか？ 実は、「共に民主党」では、「戒厳令が布かれたら直ちに国会本会議場に集まる」というシミュレーションができていたのです。

▼戒厳令を宣布する口実づくり

こうして、戒厳令の議論を秘密裏に始めたユン・ソンニョル大統領らが、次に行なったことは、戒厳令を宣布するための名分・口実づくりです。

◆北朝鮮との局地戦

一つ目。ご記憶の方もいると思いますが、昨年 10 月、平壤に 3 度にわたって無人機が侵入し、金正恩最高尊厳——北朝鮮の表現を使えば——を冒瀆するビラを捲いたと、北朝鮮が、激しく非難する声明を発表したということがありました。声明によれば、平壤上空に無人機が 3 度侵入したことと、その無人機が、韓国で北朝鮮に一番近い、白翎島（ペンニョンド）から飛び立ったということが明らかにされています。

この声明にたいして、韓国軍は、否定も肯定もしませんでした。保守言論が、「脱北者団体がドローンを北朝鮮に飛ばした」という報道を出しました。

ところが、「脱北者団体が」という報道を、元陸軍大将のキム・ミョンジュ議員が、一蹴します。平壤に行き帰ってくる航続距離を考えると、滑走路と発射装置があるそうです。垂直に離陸する一般的なドローンでは、北朝鮮まで行って帰ってこれない。では、滑走路と発射

装置を持っているの誰かと言えば、軍しかないわけです。キム・ヨンヒョン国防部長官が狙ったのは、軍を使って北朝鮮に無人機を侵入させ、これに北朝鮮が応戦するという形で、北朝鮮との局地戦を引き起こし、それを口実に戒厳令を宣告するということだったのです。

ところが、なぜか北朝鮮は応戦しなかった。これで、一つ目の口実が失われました。

◆原点打撃

二つ目。韓国の脱北者団体が、金正恩総書記を非難するビラやドル紙幣、あるいはK-POPや韓国映画を入れたUSBなどを括り付けた風船を飛ばしています。それに対抗して、北朝鮮は、ゴミをつけた風船を韓国に送ってきています。

これにたいして、キム・ヨンヒョン国防部長官が、韓国軍の合同参謀本部議長に「原点打撃」を命じたそうです。原点打撃とは、このゴミ風船を飛ばしてくる北朝鮮領土内の発射場所を叩くということです。韓国軍の合同参謀本部議長は、「そんなことをすれば、南北の戦争になりますよ」と断ったそうです。

こうして二つ目の口実づくりにも失敗しました。

◆ウクライナでの交戦も

三つ目。何と、ウクライナで、北朝鮮軍との交戦も考えていたようなのです。北朝鮮軍が、ロシアに派兵され、現在、ロシア領内のクルスクにいることは確認されています。

ユン・ソンニョル大統領は、韓国の攻撃兵器をウクライナに提供する用意があるというだけでなく、韓国軍の「参観団」を派兵するということも明らかにしました。これは、その後の調査によると、北朝鮮の軍隊がウクライナ領内に侵攻してくれば、それと戦闘を行なうことを目標にしていたというのです。それを口実に、韓国国内に戒厳令を布くことができるというわけです。

◆労働者大会の挑発

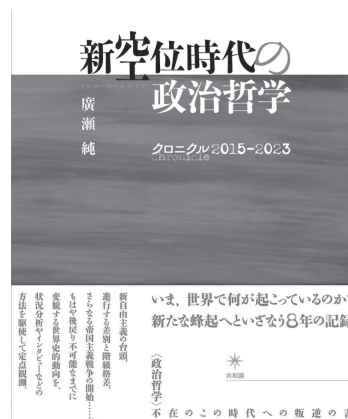
四つ目。11月には民主労総主催の全国労働者大会がありました。今年は警察とぶつかって10人が連行されました。警察がこれまでにない完全武装で、民主労総が申請した範囲の半分しか、集会開催を認めなかったために、ぶつかったわけです。

これは、極めて意図的な挑発だと思われます。「騒乱事態」を作ることが目的だったようです。それによって、戒厳令を布こうとしたわけです。

しかし、民主労総が自制をしたために、騒乱状態にはならず、これまた、戒厳令を布くことができませんでした。(つづく)

新空位時代の「何をなすべきか」

廣瀬純氏の講演を聞いて



廣瀬純氏は、週刊金曜日に長期の連載を掲載されている評論家・研究者。昨年には、その連載をまとめて『新空位時代の政治哲学：クロニクル2015－2023』（2023年刊 出版社：共和国）として発表している。今回の講演会では、現代社会と資本主義の根本的な問題について、示唆に富む発言が多く、興味深い講演だった。

◆覇権の移行期

最初に、20世紀初頭からの100年にわたるアメリカによる世界覇権が現実になんかに移行しつつあることが述べられた。20世紀初頭までの石炭を軸としたイギリスの世界覇権が、世界大戦をへてアメリカの石油を軸とした覇権体制になり、そしてそれがリチウム等のレアメタルを軸とした新たな覇権体制への移行の時期が現在。100年前に生じた二度の世界大戦によって、イギリスからアメリカへの覇権の移動が生じたが、現在もそれと同等な意味を持つ世界史的な「戦争」がおこっている。COVID（新型コロナウイルス感染症）をめぐる世界の動き、ロシア－ウクライナ戦争、そしてイスラエル－ガザ戦争なども、世界大戦に比する世界史的な動きである。こうした資本の大きな世界史的な動きにたいして、我々は「何をなすべきか」と考えると、第一次大戦期のレーニンの視点で見直してみることが必要である。

第一次大戦の勃発と同時にヨーロッパ諸国にあった社会主義政党は、自国の戦争を容認し、それに加担していった。レーニンはそのことを強く批判したことは皆さんご存じのとおり。今と比較してみると、一つの例だが、フランスではウクライナ－ロシアの戦争で、ウクライナを批判することは全く許されていない。左派的な人であってもきわめて硬直的な発言しかフランスではできない状況にある。現在のヨーロッパの左派は、当時のレーニンの批判の対象となった人びとと同じになっているのでは

ないか。

◆フェミニズム

もう一つの21世紀的な重要な視点は、フェミニズムである。20世紀までのフェミニズム運動は、数多くある当事者の権利要求運動という側面が強かった。たとえば少数民族の権利、障がい者の権利要求運動、そして女性の権利要求運動というような側面だった。

ところが21世紀に入ってからの諸政治運動を見ていくと、その内部にあって、内発的なもう一つの努力を要する課題としてのフェミニズムが内包されてきた。

たとえば南米チリでの民衆反乱そして2021年のチリの憲法制定議会の議長をマプーチェ（先住民）の女性が就任したことなど。チリにおけるこのたたかいは、70年代のピノチェットのクーデターに潰されたアジェンデの「人民連合」の運動の再開という意味があるが、その中心に先住民の女性が立っていることが21世紀的である。

数年前に起こったイランの東クルディスタンでの女性の抗議闘争（イランの宗教警察の取締の過程で女性が死亡した事件への抗議闘争）。これも1979年におこったパウレビー王朝打倒のたたかいが、イスラム主義によって「篡奪」されたことへのイラン革命の再開の意味があった。その中心にクルド人の女性たちが立っている。

◆たたかいの前線は

レーニンの帝国主義戦争を内乱・内戦への呼びかけにもどると、そのたたかいの前線は、今はどこにあるのか。そもそも資本主義が300年前に世界史的に登場した時から、資本家がやっていることは変わっていない。それは3つの資本の本源の蓄積の問題に関わっている。

一つは新大陸の侵略（「南の国々」への戦争）ということ。アメリカ大陸では先住民を駆逐して土地を奪った。他の大陸では今もなお資源を強奪している。

二つ目には囲い込み。イギリスで典型的におこった農民を強制的に都市の労働者にしていくこと。土地や自然と切り離された賃金労働者の創出の問題。

三つ目には「魔女狩り」ともいふべき女性にたいする戦争。再生産労働をすべて女性におしつけていくために、300年前から資本主義は女性にたいする戦争をおこなってきた。この3点は、現在もなお形をかえて進められている。3つのたたかいの前線。

階級について。週刊金曜日で、「敵は勝ち続け、味方は負け続けている」と書いた。敵は記憶力が良い。新大陸の強奪＝資源の強奪にしても、囲い込みにしても、魔女狩りにしても、彼らは300年以上、一貫して3つのことを継続し続けている。ところが市民は記憶力がよくない。たえず忘れてしまっている。

資本家階級は、彼ら自身が法外な利潤を求めている時に、彼らは「階級」として形成され組織されていく。戦争の時がもっとも典型的だ。しかも今はいつも階級として「団結」している状態だ。

労働者は、普通に一般的な賃金要求をしている時でも、階級としては形成されていない。できていない。しかし労働者は法外なとんでもない賃金を資本家に要求するか、敵が絶対に認めることができない要求をおこなう時に、はじめて「階級として形成」されるのではないだろうか。これが100年を経たレーニンの「何をなすべきか」ではないか。

廣瀬氏の講演内容の中で述べられた、現代世界を覇権の移行期とみる視点や、資本主義の本源の蓄積に関わる3つの視点など、重要な論点が多かった。現代社会をとらえる時に大切な視点だ。（秋田勝）

ウチナーとヤマトを結ぶ(9) 海保隊員による危険な拘束



カヌーに襲いかかる海保隊員

第一次辺野古新基地阻止闘争については、鐘ヶ江晴彦論文（「専修大学社会科学年報」第41号）に詳しい。2004年4月19日、施設局は海底ボーリング調査のための作業を強行したが、翌05年9月2日にすべての海上槽が撤去された。約1年半に及ぶ海上阻止闘争は、市民の勝利のうちに終了した。

論文では、この第一次闘争の特徴として、①運動目的の複合性、②参加者の多様性、③闘争手段の幅広さ、をあげている。こうした特徴は、14年7月7日から始まる第二次辺野古新基地阻止闘争にも受け継がれた。

しかし、第一次と第二次との決定的な違いは、強硬に抗議行動を押さえ込もうとする日本政府の方針転換であった。12年に再登場した安倍晋三首相（当時）が描く、「戦争できる軍事国家日本」の第一歩として、早急な辺野古新基地建設の完成が「国策」として進められた。

その「先兵」となったのが、海上保安庁・警察機動隊等である。

海での抗議活動に対し、「中立」あるいは「仲裁」の立場を維持していた海上保安官が、市民の小型船舶やカヌーによる抗議行動への暴力的弾圧を強めていった。数100馬力のゴムボート（GB）に乗った海保隊員による暴力的逮捕術による拘束が頻繁におこなわれ、頸椎捻挫などの大けがを負い病院に通うカヌーメンバーが続出した。小型船舶も海保隊員によって沈没させられた。

私も、やっとカヌー操作に慣れたころ、大きな波とうねりで荒れていた大浦湾で海保に拘束され、GBで約300メートルも沖に連れていかれたあげく、「ここで解放だ」と放置された。途方に暮れながらも、とにかく陸地が見える長島と平島の間をめざしてカヌーを漕ぎだした。海はさらに荒れており、2、3メートルの大波が次々と押し寄せていた。

ちょうど、長島と平島の間地点に達した時、大きな波にカヌーが乗せられ、気が付くとさらに大きな波が斜め後ろから迫っていた。とっさに、身体をカヌーごと大波に預けることによって、辛うじて転覆を免れた。

平島で見守っていたベテランの山さんからは、大声で、「潮の間ではなく、長島寄りに漕ぐんだ」とアドバイスされたが、まだ初心者だった私には、指示どおりに操作する余裕はなかった。後ろからカヌーをサポートしてくれていたゴムボートの存在にも気づいていなかった。あとで、サポート員から「もう転覆すると思いましたが、よく切り抜けましたね。どこであんな技術を獲得されたのですか」と聞かれたが、「必死でしたから」としか答えられなかった。干潮時に長島と平島の間を通過して、ぞっとした。そこはリーフが長く広がっており、沖から来た波がリーフにぶつかって大波を発生させる場所だったのだ。

数か月後、長島寄りのフロートの起点から侵入したとき、慌てたGBが猛スピードで近づき海保員が私のカヌーめがけて飛び乗ってきた。普通はカヌーの最後尾を抑えるのだが、海保員がカヌーに足をかけたため転覆させられた。GBに乗ってから、「カヌーはGBの千分の一もない木の葉のようなものだ、たとえ、すり抜けたところで、GBにすぐに追いつかれる。なぜあんな危険なことをするのか」と抗議した。珍しく、その隊員は「すみませんでした」と謝ってくれた。

当初は海保隊員も上の強い命令を受けて、安全に配慮する余裕がまったくなかった。海の安全を守るのが海保の若者たちの使命と誇りであったはずが、安倍と日本政府が権力の「手先」に変えてしまったのだ。（住田一郎）

菊池事件、再審を求める神戸集会

冤罪・経緯など、くわしく講演

—— 徳田靖之・弁護士



「菊池事件の再審を求める講演会」が開かれ、60余人が参加した（24年12月1日、神戸市教育会館）。講師は、徳田靖之弁護士。80人の会場だったから、ほっとしています。

「菊池事件の事を聞きたいという人が3人以上集まれば、どこにでも行きますよ」という徳田弁護士の言葉に、「やったるか」と思ったのが、7月。それから日程を調整し、会場を押さえました。チラシを何枚刷るかも悩みましたが3千枚を作り、死刑制度に反対している団体や狭山市民の会・こうべほかに配布をお願いし、新聞『うずみ火』にも折り込んでもらいました。日頃お付き合いのない方々も多く見受けられました。

徳田弁護士は、穏やかに丁寧に事件の経過（ダイナマイト事件、A氏殺害事件）、背景（無らい県運動、ハンセン病差別）、事件の冤罪性（凶器、親類の証言）、裁判の問題点（特別法廷、弁護人のやる気のなさ）、死刑執行の非道（3度目の再審棄却の翌日に執行。教誨師の立ち合いなし）、現在の再審運動（再審請求人団、憲法違反）などについて詳しく述べました。

熊本地裁で3者協議

現在、熊本地裁で裁判所・検察・弁護団による3者協議が行われています。弁護団は「特別法廷という憲法違反の裁判だった。速やかに検察が再審を行うべきと主張しているが、検察は再審を行う事由がないと突っぱねている」「裁判所も、死刑になっている裁判の再審を認めると、死刑制度の根幹を揺るがす。慎重な態度になっている」としています（11月23日付『未来への協働』）。

徳田弁護士は講演の後、所用のため大分へ。会場の質疑応答は、弁護団の大槻倫子・弁護士と再審請求人団共同代表の黄光男さんが答えてくれました。

命をかけて再審へ

80歳を超える徳田弁護士は、文字通り命をかけ菊池事件の再審実現のためたたかっています。「全国どこへでも講演に行く」とも。私たちの、ささやかな講演会が契機になり、各地で勉強会が開かれ運動が広がり、再審が実現し、なりよりも冤罪で死刑に処せられたFさんと、ご遺族の名誉が回復されることを望みます。

今回は、「市民デモHYOGO」「辺野古の海に基地をつくらせない神戸行動」の皆さんに、大変お世話になりました。講演会を手伝ってもらった仲間に、感謝します。お礼申し上げます。(秀)

邑久光明園「二つの栈橋」 ハンセン病患者が受けた差別の歴史



「二つの栈橋」＝岡山県瀬戸内市

岡山県瀬戸内市に、長島という細長い小島が浮かんでいます。カキの養殖用の筏が島の周囲を取り囲むように浮かび、風光明媚なところですが、江戸時代は馬の放牧場であつたらしいのですが、現在は二つの国立療養所、邑久光明園と長島愛生園が運営されている島です。

長島と本土の間(瀬溝)は、わずかに50メートルくらいしか離れていません。1988年に長島大橋(「人間回復の橋」)ができるまでは、船で島に渡っていたのです。その名残りが、長島の木尾湾にある「二つの栈橋」です。(写真/右側がハンセン病患者用、左側が職員用)湾の東側の栈橋が邑久光明園に収容される患者専用、西側が職員用に使われていました。今ではすっかり朽ちてしまった、この栈橋がいつまで使われていたのか分かりませんが、ハンセン病患者が受けた差別の歴史をとどめ

ています。

50年に及ぶ在園

私は(2024年)11月9日、10日、ハンセン病関西退所者原告団「いちょうの会」の親睦旅行に参加し、邑久光明園に行ってきました。その時に屋猛司さん(邑久光明園・入所者自治会長)のお話を聞くことができました。

屋猛司さんは、奄美大島出身です。関西で働いていた1974年5月、32歳の時に邑久光明園に入所しました。以来50年間、邑久光明園での生活が続きました。屋さんが入所したころは、750人余りの入所者がいたそうですが、2024年11月9日の時点で70代が3名、80代21名、90代26名、合計50名ということでした。平均在園年数は、50年に及びます。

全国ハンセン病療養所入所者協議会など、4団体で構成される統一交渉団と厚生労働省との協議で、国立療養所の将来構想が話し合われており、最後の一人になるまで国が責任をもって入所者をケアすることが決まっています。しかし、全国13カ所の療養所では、入所者の高齢化のために、自治会が機能しなくなっている所も多くなっています。

「福祉の国」の棄民政策

せっかく療養所を出て地域で生活してきたのに、また療養所に戻らざる得ない人もあります。療養所に隔離されると同時に、故郷・家族から断絶を余儀なくされ、かつ療養所の中で断種・墮胎手術を受けさせられ、その上、産まれたばかりの赤ちゃんまで無残にも殺されました。そのため、子どもさんもない人も多いからです。

そういう人たちのために、たとえ入所者がゼロになっても5年間は療養所を閉鎖せずに維持することが決まっているそうです。

かつてソ連共産党のゴルバチョフ書記長が言った「日本は世界で一番成功した社会主義国」のような、資本主義国です。不思議な国です。先進国でありながら、アメリカの植民地(日米合同委員会でがんじ絡め)のようだし、議会制民主主義国だけれども、アメリカや韓国のように政権交代も起こりません。

水俣病対策やハンセン病対策では、徹底した棄民政策をとってきました。すさまじい差別と排除の政策を行ってきたわけです。

一方で、国民皆保険制度があります。私のような重度

障害者には、重度障害者医療制度もあり、また各種の障害者割引制度や減税措置もあります。さまざまな福祉政策、制度も、多くの当事者、支援の運動が勝ちとってきた結果です。

たたかい続けた患者と支援者

ハンセン病対策に限っては、わが国は徹底した差別と隔離政策を行ってきました。それに対して、国家賠償請求訴訟を提起し、血の滲むような運動を当事者が行なった結果、屋猛司さんが話しているように、厚生労働省が対策をとってきたのだと思います。入所者自身がたたかい続けたからこそ、今があるのだと感じました。

もちろん、これらを紹介したのは、日本の差別社会を免罪するためではありません。(こじま・みちお)

「ウリハッキョは子どもたちにとってアイデンティティ」 朝鮮学校に通う子どもを支援する「火曜日行動」



1月14日火曜日正午より、いつもの府庁前でなく大阪城教育塔前(写真右下の塔)で、600回目の集会と府庁周辺のパレードを行いました。集会には、朝鮮学校学生、保護者、同胞、支援する労働組合や市民など350名以上が参加しました。

集会に先立ち、司会の「無償化連絡会・大阪」の共同代表・長崎さんから、子ども基本法大綱を勘案した大阪府・大阪市の「子ども計画」の策定に関するパブリックコメントと、山口県長生炭鉱の遺骨収集に関するクラウドファンディングが呼びかけられました。

また、集会の冒頭、長崎さんは、「600回は決して喜ぶべき数字ではないが、『絶対にあきらめない。子どもたちの権利を守り抜くためにたたかい続けていく』という私たちの思いと、支援する人びとのつながりを示すものだ」と話されました。

集会での発言を紹介します。

私たちの子どもにも未来を思い描く権利がある

——東大阪初級学校のオモニ

大阪府は、すべての子どもが将来にわたって幸せな生活を送ることができる社会の実現を目指す「子ども計画」の制定を進めていますが、私たちの子どもにも、輝かしい未来を思い描き幸せに生きる権利があります。ウリハッキョは子どもたちにとってアイデンティティ、自分が自分であることを認め受け入れていくことを自然に学ぶ大切な場所です。仕事を調整しながら「火曜日行動」に参加するオモニたちは、子どもたちが幸せな未来を描いて生きていくために声を上げ続けます。

歴史的構造的差別だと勧告されている

——丹羽雅雄弁護士団長

無償化裁判で唯一勝利した大阪地裁判決を忘れてはならない。判決文には、朝鮮学校の意義、それを支える朝鮮総連の役割を明確に書いてある。国際人権委員会などでも、朝鮮学校の子どもたちにたいする歴史的構造的差別であることを一貫して勧告されている。国際的な反植民地主義の潮流の中で、適合した判決であることを決して忘れてはならない。

遺骨収集に国の予算を

——大椿ゆうこ参議院議員(社会民主党副党首)

朝鮮半島出身者が多く亡くなった長生炭鉱(山口県宇部市)の遺骨収集のため、国の予算を使うべきだと、国会で追及している。みんなの怒りをしっかり受け止め、国籍にかかわらず誰もが学べる、民族教育を学ぶ権利を、国会の中で引き続き訴えて皆さんの力になりたい。

自分の人格を否定されたようで悔しい

——朝鮮中高級学校の先生

はじめてこの問題に出会ったのは中学校2年の時。先輩が「自分の人格を否定されたようで悔しい」と泣いているのを見て、自分もすべての同級生が否定されたようで悔しかった。そういう気持ちに後輩をさせてはいけないと抗議行動に参加してきました。小学生たちが「自分たちは悪い子なんですか」と泣いているという話を聞きます。それがすごく悔しくて、差別は今も残っていると胸が痛かった。早く社会を変えないといけない。一緒に行動していける志を持った子どもたちとともに、教育を

通して励んでいきたい。差別のない社会を目指してともに最後までたたかっていきましょう。

日本社会の一員の責任として

——「無償化連絡会・大阪」・大村和子さん

「きらきら光る無償化の文字 私たちの心を躍らせた。

きらきら光る無償化の文字 私たちの心を凍らせた」

2010年、朝鮮高校だけが無償化から除外されたときの高校3年生の詩です。子どもたちを裏切り、心を傷つけ、民族差別排外主義を平然と行う日本の為政者たち。それを許している日本社会の一員の責任として、社会を変え成熟した共生社会を築かなければならない。そのための積み重ねが600回を迎えた。600回はたくさんの人のつながりだ。これからも声を上げ続け、たくさんの人と連帯の輪を広げていこう。勝利の日まで。

集会の終わりに、「声よ集まれ 歌となれ」を全員で合唱して、府庁周辺パレードに出ました。パレードでは、「差別を絶対許さない。無償化を適用せよ。補助金支給を復活せよ」と力強く声を上げました。(佐野裕子)

三里塚の産直野菜

柔らかくおいしい大浦ゴボウ



「正月セット」に、太いゴボウが入っていた。「大浦ゴボウ」という品種らしい。太く、少し空洞があるが、柔らかい。風に当たると萎びるため、新聞紙にくるみビニール袋(傘用の袋が重宝)に入れ、日陰におく。わが家ではお正月の酢ゴボウを、まだ食べている。(淡)

三里塚「産直野菜」は有機無農薬。毎週・隔週、「お試しセット」あり。

〔お問合せ〕

電話／0799-72-5242

Eメール／kanjitsu_mail@yahoo.co.jp

扇状地



「わが兵庫県」に目を向けると、立花孝志とタッグを組んで不可解きわまる再選を果たした斎藤知事という人物がいる。百条委員会で追及されると、やたらに「記憶がない…」を連発している▼若いのに、これほど「記憶がない」とは。知事としての仕事は不可能なのでは…」と心配し、かつ皮肉を込めた批判も続いている。1976年、ロッキード事件で小佐野賢治が連発した「記憶にございません」を思い出した▼選挙中も不利とみれば「高校生から、斎藤さん頑張れと励まされた」とも言っていた。自分の政策アピール、演説で「人々を説得できなかった」証左ではないかと勘ぐってしまう▼女性問題で不信任を突きつけられた維新の岸和田市長も、言い訳会見に妻を同席させ、風当りを弱めよう？ 画策していた。斎藤知事の「高校生」も同じ構図だろう▼吉村・大阪府知事は、政治資金パーティ収支報告書の記載もれを「うっかりミス」と受け流した。裏金問題で、これほど世間が大騒ぎしているときに、「うっかり」で済むのか▼維新とは、こんな議員や首長の巣窟なのか。今年も「斎藤やめろ」の声は続く。(修)



川柳

家系図の一番上はバクテリア
九十歳になれば分かれると叔母が言う
授業中 友のイビキで目が覚める
鉄人の肩と腰にサロンパス
ボロボロの地球を孫に引き渡す
おじいちゃん こんな地球はいりません
高熱のピエロに代わり樽に乗る
お元気ですか新子先生まどかさん
雪山で眠れば死ぬとビンタされ
お隣りに貸した包丁戻らない
一日中水戸黄門のテレビ観る
いいんですロマンス詐欺でいいんです
次の世もあなたの夫でいいんですか
裸婦デッサン マネキンなんて聞いてない
マネキンをギュッと抱いたらビンタされ
背骨折れ打撲であると信じ込む
リハビリパンツ立っておしっこ不便です
決闘の 七で引き金引く二人
叫んだら殺すと言っていましたね
震災に舞った悪魔のアスベスト

インフォメーション

■2月8日(土)

日本の食と農が危ない・パート4

時間：午後2時～4時半

会場：PLP会館4階中会議室

資料代：1000円(相談に応じます)

お話：川田龍平(参議院議員)

主催：戦争あかん！ロックアクション

■2月9日(日)

「公安」の市民監視に鉄槌！

～憲法違反の画期的判決報告集会

時間：午後1時半～

会場：クロスパル402会議室(JR高槻駅すぐ)

報告：近藤ゆり子(訴訟原告)

連絡先：自治体の戦争協力を許さない会・アスネット

■2月11日(火・休)

2.11 建国記念の日反対！戦争NO！

「日の丸・君が代」強制反対！集会

時間：午後1時 開場 1時半 開始 4時半 デモ

会場：大阪市立浪速区民センター・ホール

参加費：500円(学生・障がいのある方無料)

手話通訳あり Zoom配信あり

講演：桜井智恵子(関西学院大学人間福祉学部教授)

主催：「日の丸・君が代」強制反対大阪ネット

■2月22日(土)

核問題特別委員会 公開講演会

手に負えない原発 それでも動かしますか？

時間：午後2時～4時

会場：大阪クリスチャンセンター1階大ホール

講演：樋口英明(元福井地裁裁判長)「原発は地震に耐えられない」

主催：大阪教区核問題特別委員会

■2月24日(月・休)

第9回 狭山事件の再審を実現しよう

市民のつどい in 関西

時間：正午 開場 午後1時 開始

集会終了後(4時半頃) JR新今宮方面へデモ

会場：大阪市立西成区民センターホール

資料代：500円

記念講演：「部落問題の現在から見る狭山事件」

対談：上川多実×山田哲生(兵庫県連狭山闘争本部長)

コーディネーター斎藤成二(市民の会・こうべ)

特別アピール：「狭山事件と菊池事件 冤罪としての共通の構造を探る」徳田靖之(弁護士)

ビデオメッセージ：石川一雄 石川早智子

冤罪アピール：袴田ひで子 青木恵子 西山美香

林眞須美長男

ライブ：カオリンズ アカリトバリ

主催：狭山事件の再審を実現しよう

市民のつどい in 関西実行委員会

読者のみなさんへ

タブロイド判『未来への協働』の臨時休刊により、読者のみなさんには大変ご迷惑をおかけしました。タブロイド判にかわって、当分の間、『未来への協働ニュースレター』をお送りします。ニュースレターは、A4版12ページ、毎月1日発行(頒価200円・送料別)です。

引き続きニュースレターを購読される方で、タブロイド判『未来への協働』の購読料として2024年12月以降の購読料を前払されている方については、前払されている期間に休刊していた2024年12月と2025年1月の2カ月分を加算した上で、その2倍の期間(月1回発行のため)が前払されたものとして取り扱わせていただきます。

(計算例)

半年分前払の場合

$(6\text{カ月} + 2\text{カ月}) \times 2 = 1\text{年}4\text{カ月分前払}$

1年分前払の場合

$(12\text{カ月} + 2\text{カ月}) \times 2 = 2\text{年}4\text{カ月分前払}$

読者のみなさんには引き続き『未来への協働ニュースレター』を御購読いただきますようお願いいたします。なお、返金を希望される方は下記まで御連絡ください。

未来への協働

〒577-0023

大阪府東大阪市荒本2-14-5

電話/FAX (06) 4306-3512

Eメール :miraihenokyodo@gmail.com